



ラジオの意義と課題

2019年3月27日

一般社団法人 日本民間放送連盟

- 地域に密着したラジオの存在 2
- デジタル化するメディア環境への適応 10
- ラジオ経営の現状と展望 19
- A M送信所の更新の困難さ 22
- ラジオの将来に関する要望 24

1. 地域に密着したラジオの存在

地域に密着したラジオの存在



- ・ラジオは受信機と乾電池さえあれば、いつでもどこでも聴くことができる、大変便利なメディアです。ラジオは地域に密着した生放送中心のメディアであり、パーソナリティの肉声がリスナーとの間に親しみのあるコミュニケーションを形成します。
- ・自社制作比率が高く、平均52.7%です（ラテ兼営局49.8%、A M・短波単営局74.4%、F M局48.4%、2015年民放連調べ）。
- ・地域経済に貢献し、放送エリア内のローカル広告主からの収入が60%以上を占める社が過半数です（2015年民放連調べ）。
- ・ラジオならではのファンコミュニティが存在し、民放ラジオ社が主催する“ラジオ祭り”には数万人のファンが集まります。

■ 地域密着の生放送がラジオならではの親しみのあるコミュニケーションを形成します。

圖書分類

[illegible]

民放ラジオの震災報道

【書籍紹介】

- 人々に勇気を伝え続けたのはラジオだった。
3.11 IBCラジオが伝えた東日本大震災
- 発災から108時間にわたって情報を伝え続けた。
ラジオの存在と役割を改めて問う、ドキュメント
& 証言の記録



- テレビで津波の映像を見たら、ラジオはだらしないと思う筈なんだよ。あんな凄いことをラジオは伝えていなかったんじゃないかとね。だけどそうじゃなくて、本当に辛い思いでいる人に、それ以上の苦痛を与えないようにしてたんだとやがて気がついた。ラジオが唯一の救いの光であるひとから、希望を奪わないように放送してるんだと分かって感動した（作家・高橋克彦／本文より）

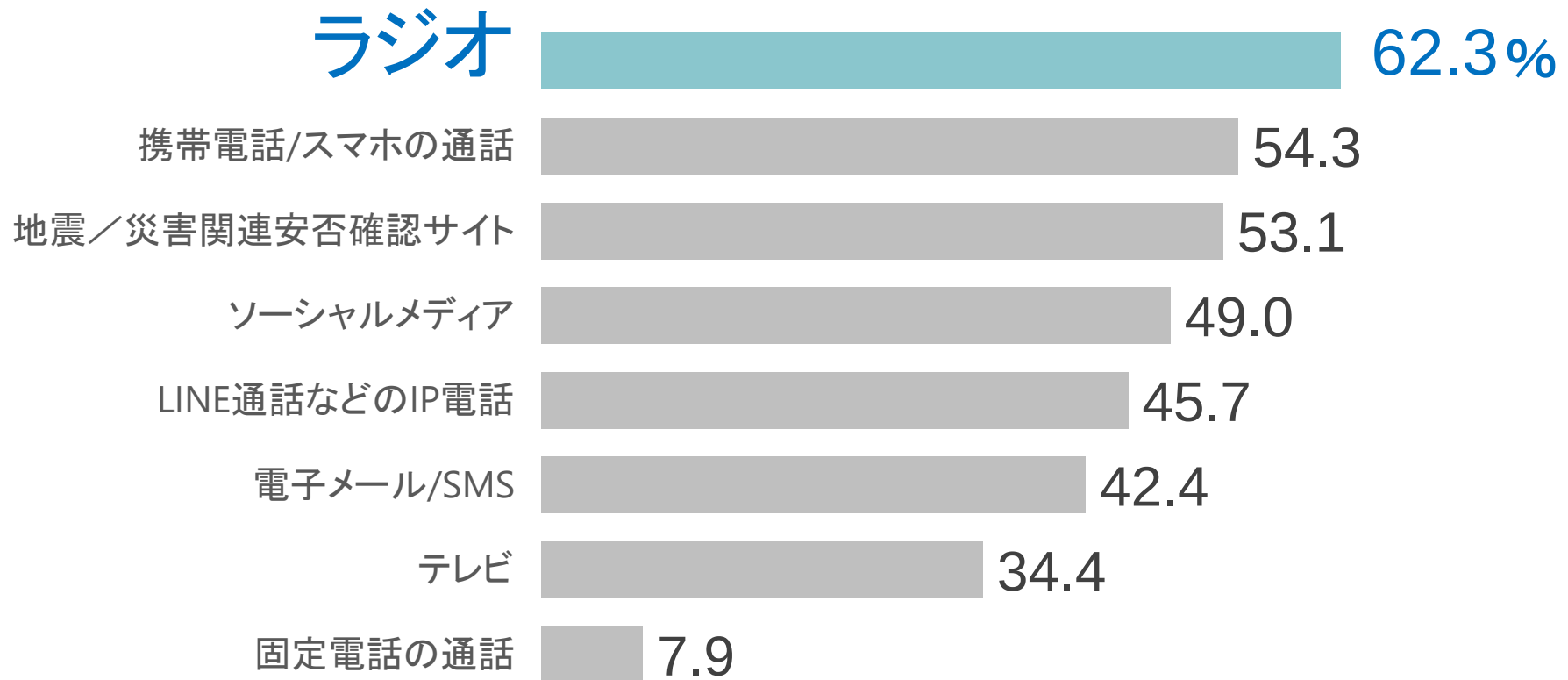
民放ラジオの災害時の有用性

- ラジオは受信機と乾電池さえあれば、いつでもどこでも聴くことができる、大変便利なメディアです。
- 特に災害が発生して停電した際に、いち早く情報を得るうえで非常に有用です。



北海道胆振東部地震を伝えるテレビ放送

・地震等からの避難時に役に立った情報源



●都市型難聴の解消

- ・会社帰りを歩いて帰っている時が一番聴いております。都内を2～3時間歩く事もあり、以前のAMでは途中入りにくかった事もあったのですが、ワイドFMだとクリアな音声が続いて聴けて嬉しいです！
- ・ワタシの愛用ワイドFMラジオは、S社製のもの。電車の中、室内と場所を問わず活躍しています。ときどき就寝のおともにもなってます。
- ・我が家は年間通してほうれん草を生産している農家です。作業場に、ほうれん草をパック詰めする機械をやっと導入しましたら何と、AMラジオが聞こえない(T_T)電波障害が起きてしまったようです。と、ラジオを見てみると運よくワイドFM対応！あわせてみると聞こえました！しかも、いい音(≧▽≦)お陰さまで変わらずラジオを聞いて、笑いながら、感心しながら、呆れながら楽しく仕事しています！
- ・両耳イヤホンかヘッドホンで聴くと、交通情報などのジングルもステレオミックスされていて、音が左右に飛び回るのが、遊び心が感じられて楽しいです。

(TBS・文化放送・ニッポン放送共同キャンペーン「あなたのワイドFMラジオ見せてください」キャンペーン、2017年11月20日～12月3日に寄せられた声)

●災害時にも活躍～2016年熊本地震の例

- ・先日避難所に、3連泊しましたがFMのポケットラジオで助かりました。元気をもらいました。地震情報と音楽を聴いていました。
- ・本震の時は、大活躍した。避難所に移動するまで、頼りはラジオでずっと付けていました。買ったばかりのワイドFM対応ラジオが、電波の入りも良く役にたちました。避難所に移動してからは、避難所にあったラジカセを皆で聞いてました。

(RKK熊本放送に寄せられたリスナーの声)



- F M同期放送は周波数の有効利用を実現し、リスナーの利便性を向上させる優れた技術ですが、設備導入のコストが大きな課題です。

2. デジタル化するメディア環境への適応



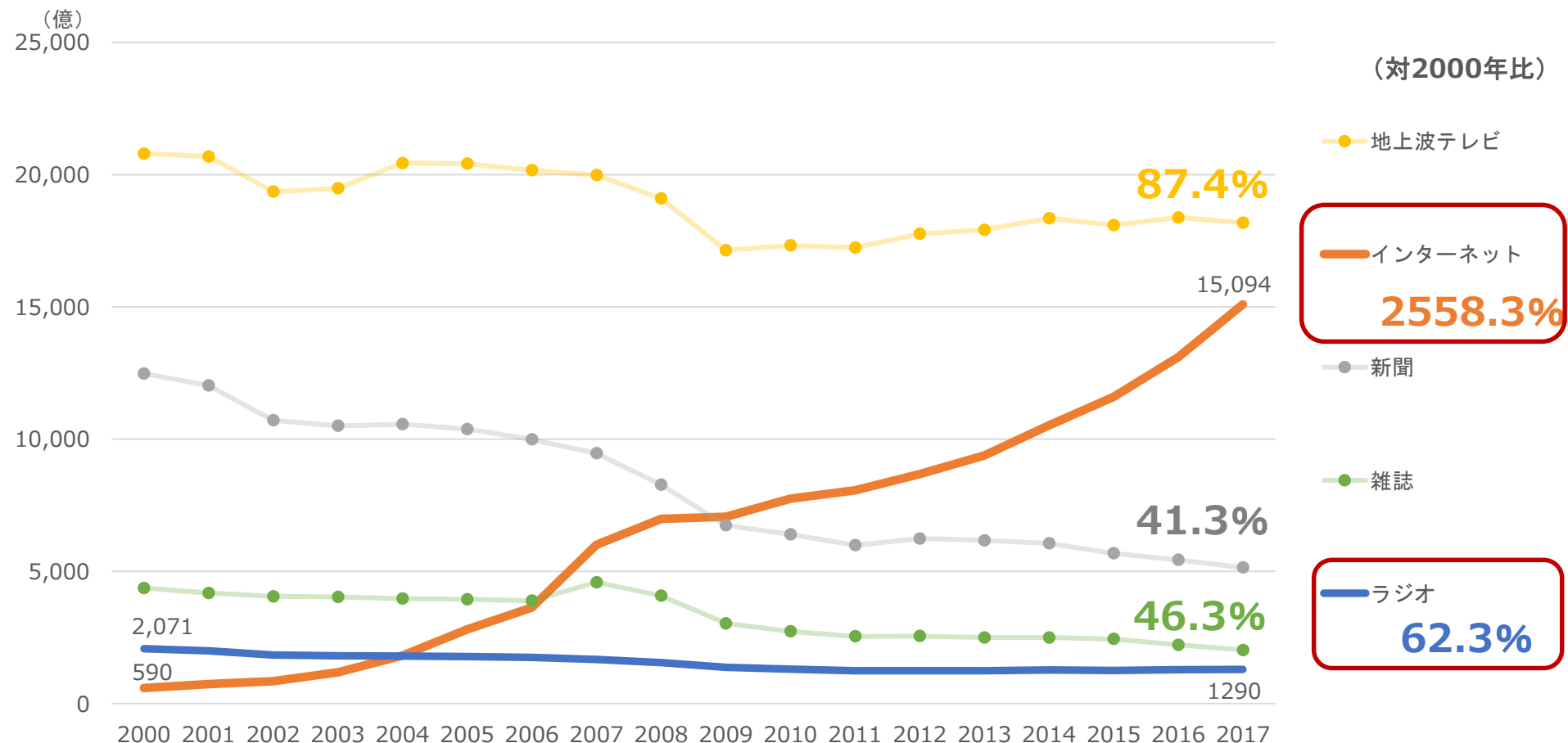
ラジオのインターネット配信サービス「radiko」

- ・ 2010年3月に実用化試験配信を開始、同12月に株式会社radiko設立。都市難聴対策、聴取機会の拡大、若年層へのアプローチ、SNSと連携した新しいラジオの楽しみ方の提案、ラジオ業界全体としての媒体価値向上などが目的。
- ・ radikoでは全国のラジオ放送がネットで同時配信されている（民放連加盟101局中93局が参加）。インターネット接続環境があれば今いる場所のラジオ放送をパソコン、タブレット、スマートフォンで聴取できる。
- ・ スマホアプリダウンロード数は3000万以上。日間ユニークユーザー（UU）数は約120万以上。
- ・ ライブ配信だけでなく、過去1週間以内の番組聴取が可能な「タイムフリーサービス」も実施。プレミアム会員（月額350円、約57万人）になると、全国のラジオ局の放送が聴ける「エリアフリーサービス」も実施。
- ・ スマートスピーカーにより、リビングでの聴取が再活性化。radikoは、Google Home、amazon echo、LINE Clovaに対応。

■ radikoを共通のプラットフォームとして、ローカル局の地域コンテンツを全国へ配信する仕組みが構築されています。



デジタルシフトによる市場環境変化 【広告費推移】



ラジオの広告費は約20年間漸減傾向。
一方、ネット広告費はここ10年程度で急伸。
ここ10年程度で**広告主様の広告の買い方**が劇的に変化

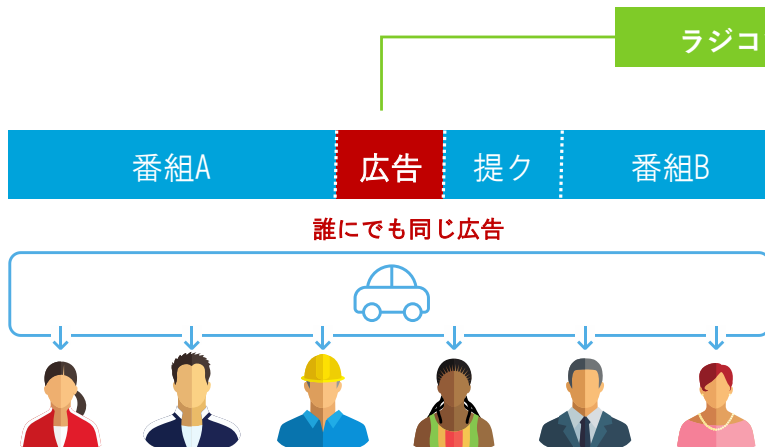


ラジコオーディオアドとは？

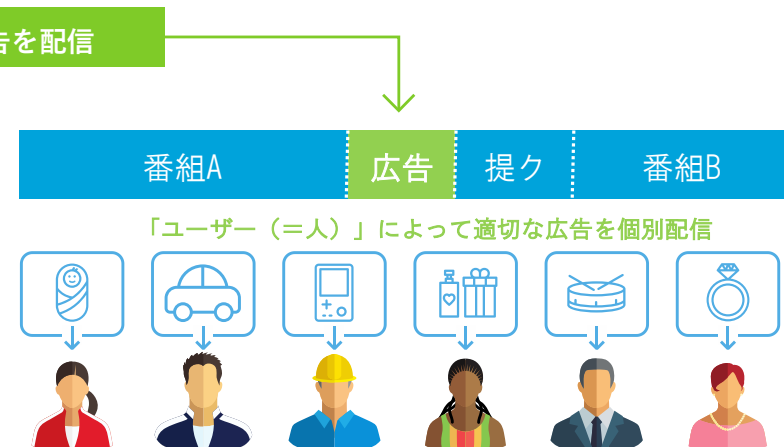
radiko
Ad

地上波ラジオの一斉同報広告(＝枠)とは異なり、
ラジコでは「ユーザー(＝人)」の属性・嗜好性に合った広告を
それぞれ個別に差し替えて適切配信＝ターゲティング配信します。

..... 地上波ラジオ



..... radiko audio Ad



ラジスマ（ハイブリッドラジオ）の開発



14



ラジスマショートムービーの上映



ラジスマのメリット

F M放送



高音質
遅延がない
輻輳がない
省電力*

通信



番組表・出演者
楽曲情報
タイムフリー／エリアフリー

ラジスマ
いいとこどり

* 画面オフの場合。通信利用と比べて、バッテリーが3倍持つとのデータも。

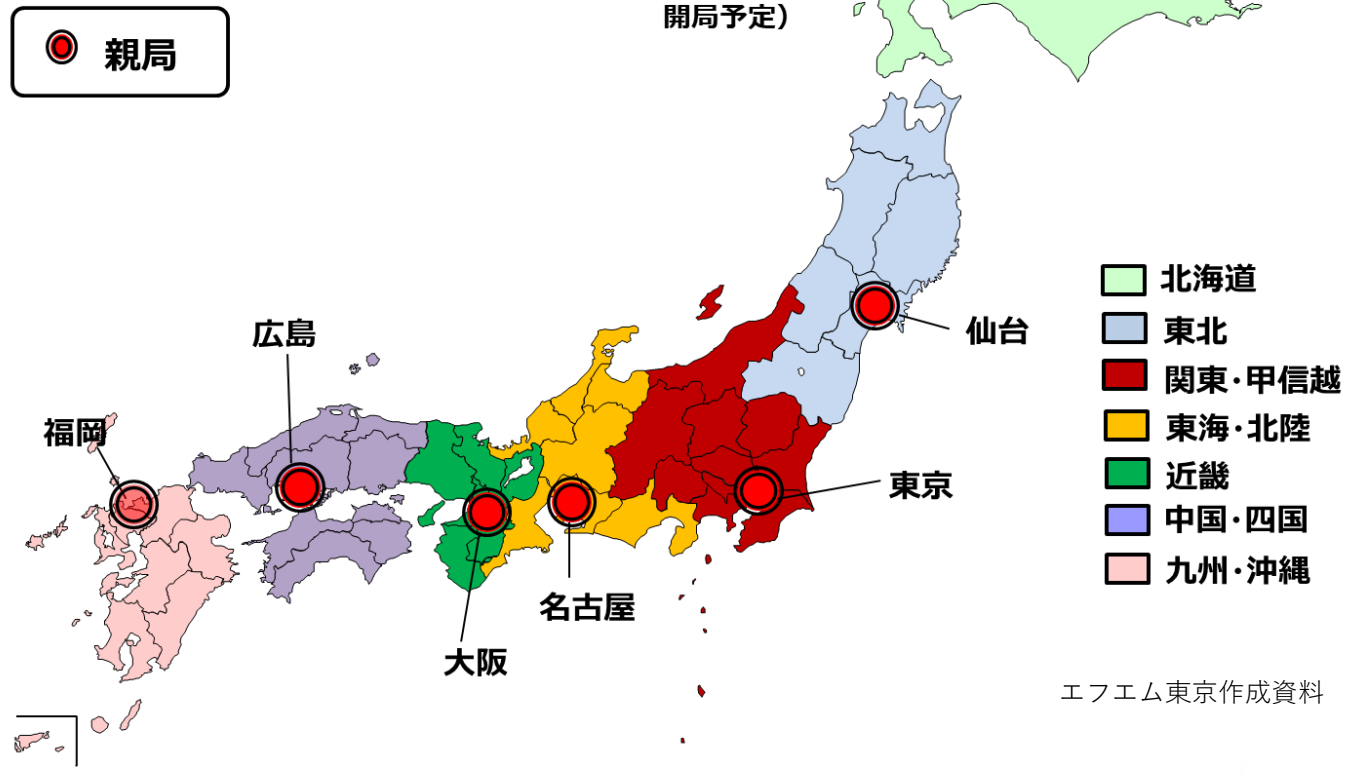
●2019年2月に、NTTドコモ「らくらくスマートフォン me F-01L」、au「URBANO V04」の2機種が発売開始。

●民放連ラジオ委員会は現行機種の普及を目指すキャンペーンを全社で実施中。また、後続機種の開発に向けて、通信キャリア、メーカーへの働きかけを継続している。

V-Lowマルチメディア放送

V-Lowマルチメディア放送

<全国 7 ブロック放送>



エフエム東京作成資料

V-Lowマルチメディア放送

©i-dio = 次世代のコミュニケーション・プラットフォームの創造

- ラジオのデジタル化（高音質、メタデータ配信、ネット連携 etc.）
- 災害情報配信の高度化（V-ALERT）
- 放送と通信の融合ビジネス開発（インバウンド向け多言語情報配信、車向けピンポイント情報配信、サイバーセキュリティへの利活用 etc.）

事業領域	BtoC		BtoB (BtoBtoC)	BtoG
	ホーム	クルマ		
サービス コンテンツ	・FMサイマル ・高音質デジタル ↓ ハイレゾ級 無料放送 	ドライバー向け チャンネル ↓ ピンポイント データ配信	データキャスト・ モノへの放送 (IoT) ↓ ・多言語情報配信 ・サイバーセキュリティ	市町村防災行政 データ配信 V-ALERT ↓ 見守り・地域EC
端末 アプリ	ホームラジオ  2019年6月発売 (予定) ※ワイドFMにも対応	車載ナビ  2019年10月より 順次 (予定)	車載ナビ サイネージ 専用機器	防災ラジオ ↓ TV接続型 屋外拡声器 ↓ 鍵BOX・点灯

課題

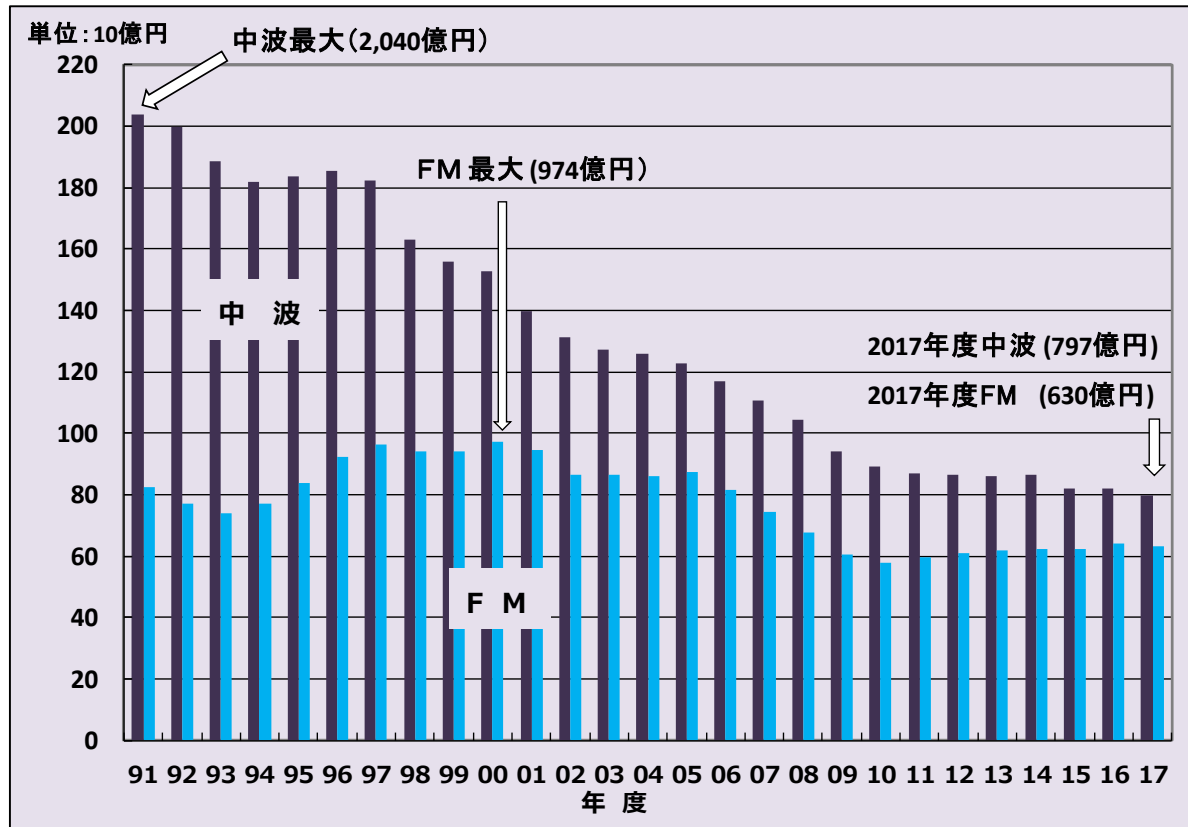
- 中継局・ギャップファイラー等のインフラ基盤整備、受信端末の普及促進、新規ビジネスの研究・開発

エフエム東京作成資料

- V-Lowマルチメディア放送の事業会社は民放連に加盟していませんが、JFN各局から民放連に対し、中継局整備や受信機普及に対する国の支援を求める要望が寄せられています。

3. ラジオ経営の現状と展望

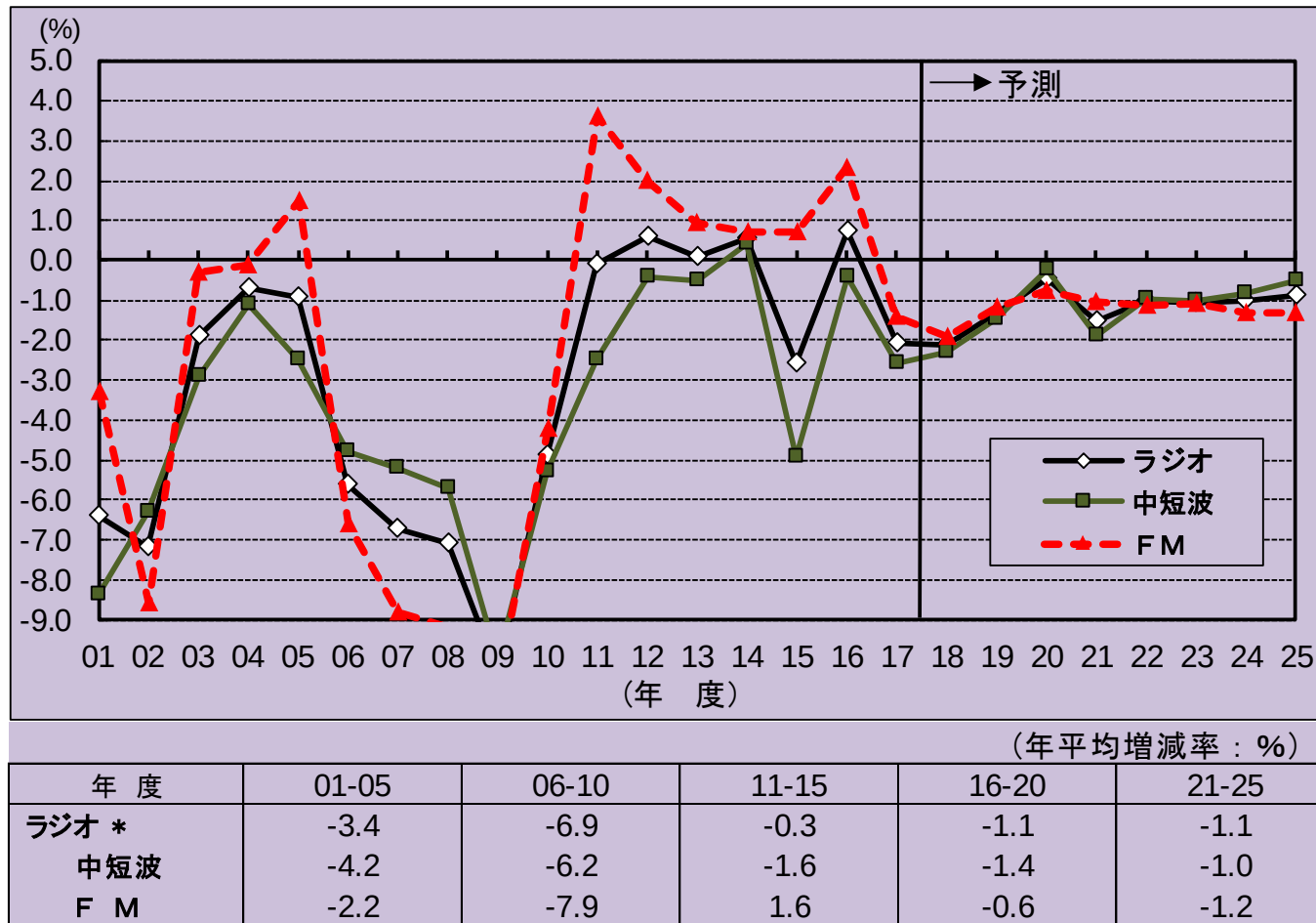
ラジオ営業収入の推移



2018年民放連調べ（総務省「放送事業の基盤強化に関する検討分科会」第1回会合（2018.11.20）提出資料）

- 1991年度に2,040億円あったA M社の営業収入は2017年度に797億円まで減少し、この26年間でピークの1991年度から約60%減です。
- F M社もピークの2000年度から約35%減です。

ラジオ営業収入前年度比伸び率の推移と予測（2018-2025年度）



2019年民放連調べ、会員地上波ラジオ社のみ

- ラジオが災害時の「ファースト・インフォーマー」（第一情報提供者）として、今後もその社会的責務を果たしていくためには、**ラジオ事業の基盤強化が必要**と考えています。

4. A M送信所の更新の困難さ



A M大規模親局を放送しながら更新することは極めて困難



【TBSラジオ 親局送信アンテナ】



【STVラジオ 北見中継局】



【RKB毎日放送 親局】

- ・ A M送信所は効率を高めるため、①送信周波数に対して適切なアンテナ高、②ラジアルアースを敷設する広い敷地、③伝導率の高い敷地（多くの水分を含んだ土地）が必要。
- ・ A M親局の送信柱は、保守することで50年間使用可。それ以降は精密検査で耐用年数を判断している。
- ・ A M親局(100kW級)を放送しながら更新することは同じ敷地内の建替え、別の敷地での新設のいずれも物理的に極めて困難。
- ・ 5kW級も困難だが一定の条件が整えば可能な場合がある。中継局（1kW級）は敷地に余裕があれば、同じ敷地内に建替え可。

■ A M親局を放送しながら更新することは、**物理的に極めて困難**です。

■ ラジオ営業収入が大きく落ち込む中、民放ラジオ事業者の財政力で**実施できる設備投資には、限界**があります。

■ AM民放事業者は親局等の設備更新が実質的に極めて困難なため、10年先を見越した**設備投資計画**を策定することができません。

5. ラジオの将来に関する要望

ラジオの将来を切り拓く

BESIDE YOU

ラジオは あなたとともに。

新しい朝に、フレッシュな出会いを。寂しい夜には、軽快なトークを。
ドライブには、ミュージックを。災害時には、確かな情報と元気づける言葉を。
ラジオは、あなたのそばにいます。

FMで伝えます。FMでも伝えます。

FM局 全国53局

AM局(ワイドFM) 全国47局

ワイドFM全国拡大中
ワイドFMとは、AM放送がFMで聴ける放送サービス
※一部のワイドFMは、今後開局予定

■ 民放ラジオはよりいっそう厳しい競争の時代を迎えます。

■ 私たちには1951年の放送開始以来培ってきた、**番組制作のノウハウ**があります。

ラジオに親しみを感じてくれる、**たくさんリスナー**の方々がいます。

■ 民放ラジオは**番組の力**で、ラジオの将来を切り拓く覚悟です。

ラジオの将来に関する要望

■ F M補完中継局制度の見直し

- ※ F M補完中継局制度を見直し、A M放送からF M放送への転換や両放送の併用を可能とするよう制度を整備する。
- ※ 遅くとも2028年の再免許時まで、A M放送事業者の経営判断によってA M放送からF M放送への転換や両放送の併用を全国的に可能とする。
- ※ 全国的な制度整備に向けた諸課題を洗いだしつつ、2023年の再免許時を目途にA M放送を一部地域で実証実験として長期間にわたり停波できるよう、総務省は必要な制度的措置を行う。

■ F M同期放送の普及推進

- ・ 経営判断によってF M同期放送のための設備整備を行う民放事業者への支援

■ F M放送のトンネル内再放送の普及推進

- ・ 道路管理者（国、市町村、高速道路会社）への設備整備の働きかけ

■ 放送ネットワークの強靱化

- ・ 災害対策、難聴対策などのための支援措置の継続、拡充

■ 無線局運用の資格要件の緩和

- ・ コミュニティ放送局と同等の資格要件（第二級陸上特殊無線技士以上）への緩和

■ デジタル化するメディア環境への民放ラジオ事業者それぞれの取り組みへの支援